

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2019年度 助成者)

作成日 2019年 8月 22日

氏名 (フリガナ)	伊吹 知真 (イブキ トモマサ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2019年8月12日(月)～8月17日(土)
大学名	愛媛大学
学年	5年

私は海外での臨床や医学英語に興味を持っており、海外の臨床現場に触れられ、現地の先生や医学生と交流できるプログラムを探していました。その様な中当プログラムを見つけることができ、この度参加させていただきました。

プログラムでは様々なレクチャーや病院の見学がありましたが、特に印象深かったのは **case presentation** についてのレクチャーです。**case presentation** が何たるかをあまり理解できていませんでしたが、**case presentation** がアメリカの臨床現場でどれほど重要視されているかから教えていただき、何を聴取し、どのように提示するかを学びました。具体的には参加者同士やハワイ大学医学部生から **history taking** をし、先生方に1対1で **presentation** を行い、フィードバックを頂く事を繰り返す、という内容でした。患者役のハワイ大学医学部生は現地の患者さんの様に振る舞いつつ質問に答えてくださり、とても実戦的な雰囲気でした。また細かい英語の言い回しのアドバイスを頂けた事も勉強になりました。プログラムにおいて **case presentation** の時間はしっかりとられており、毎日のように練習できました。最終的には **history taking** から **case presentation** までスムーズに行えるようになり、自信になりました。このような贅沢な勉強は正にここでしかできない貴重な経験だったと思います。

また荻原先生や小林先生、乃木先生、町先生といったハワイの臨床現場で活躍されている先生方のお話を伺えたこともとても刺激的でした。臨床現場に必要な事や勉強方法といった話から医師になりたての頃の失敗談まで話して下さり、雲の上の存在だった先生方が少しだけ身近に感じられました。どの先生方もプログラム中だけでなく、今後も困ったことがあったらいつでも連絡しておいでと言ってく下さったことが印象的でした。

プログラムは朝から夜9時頃まであり、少しハードだなと感じたこともありましたが、勉強一辺倒ではなく楽しい事もたくさんありました。僕は愛媛大学から1人で参加したのですが、初日や最終日に学生や先生方とのパーティーを催していただけたのですぐに打ち解けることができ、6日間楽しく過ごすことができました。またハワイ大学医学部生の積極性や医学を楽しんでいる様子、日本の学生達の熱心さや優秀さを間近で見て、自分の医学に対する姿勢を考えさせられました。ここで出会った仲間たちと次に会う時はもっと渡り合えるようになっておく事が今の目標です。

プログラムに参加した6日間はとても恵まれた環境で過ごさせていただきました。このような環境を用意することがどれほど大変な事かは想像に難くありません。尽力して下さった沢山の先生方に感謝し、教わったことを活かして今後とも精進しなければと思います。

最後になりますがお世話になりました東海大学、神戸大学および Hawaii Tokai International College の先生方、スタッフの方々、そして日米医学医療交流財団の皆様に御礼申し上げます。